

木村緑平をしのいで、献花をする参加者



山 頭火支えたスズメの俳人しのぶ 木村緑平第53回句碑祭

南浜武出身で自由律俳人、木村緑平の第53回句碑祭が10月22日、柳城児童公園の句碑前で開催されました。5・7・5のリズムにとらわれない自由律の道をこつこつと歩み続けた緑平。3000を超えるスズメを詠んだ句で「スズメの俳人」と呼ばれました。この日は、市内外から約30人が参加し、献花などを行いました。また、市内の小中学生を対象に募集した「緑平ジュニア賞」には3200句を超える応募があり、優秀賞10句、入選作品40句が選ばれました。

会場に展示された作品一つ一つをじっくり見入る来場者



新 たなホールで芸術に酔う 市総合美術展を初めて文化会館で開催

10月31日から11月7日まで、市総合美術展が開かれ、総勢1578人もの来場者が訪れました。33回目を迎える今回は、昨年12月に開館した市民文化会館で初開催。会場の白秋ホールには、洋画、日本画、書、写真の各部門で審査を通過した作品など251点が展示され、来場者は力作に見入っていました。10年ほど前から毎年美術展に来ているという女性は「文化会館に初めて来館したけど、雰囲気は美術展にぴったり」と同館での開催にご満悦でした。

入学後初めての運動会で元気いっぱいゴールを目指す1年生



最 最後まであきらめずに 秋晴れの下、蒲池小学校で運動会

10月から11月にかけて、市内各小学校で運動会が行われました。蒲池小学校（野中裕二校長）は、10月30日に開催。全校児童315人が秋晴れの下、かけっこや玉入れ、こっぴりーダンスなどを披露し、日頃の練習の成果を発揮しました。体育委員長を務めた6年生の古賀日彩さんは、「6年生が中心となって、思い出に残る運動会にすることができた。大変だったけど、みんなと協力して楽しい運動会になりました」と満足そうな表情を浮かべていました。

会場周辺を練り歩いた子どもみこし



子 どもみこしでみんなを元気に 第27回フェスタなかやま

10月23日、「第27回フェスタなかやま」が社会教育集会場でありました。今回はコロナウイルス感染拡大を防ぐため規模を縮小して開催。会場周辺をスタートした中山小の児童63人による子どもみこしは、元気な掛け声を響かせながら、地域を練り歩きました。6年生の石橋花音さんは、「コロナでイベントがなくて寂しかったけど、みんなとみこしを運べて楽しかった」と喜びいっぱい。また、会場では、小中学生が人権作文や標語を発表し、参加者は熱心に聞き入っていました。

ま ちかど レポート

身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。
【問】企画課広報広聴係（☎77・8425）

留 学生が日本文化を体験 新外町の「光琳亭」で着物を譲り合い

11月14日、新外町の交流施設「光琳亭」で着物の譲り合いイベントが開催されました。主に筑後地区で活動しているNPO法人夢応援隊・WITH企画（永田一晴理事長）が、日本の文化や心を次の世代に伝えようと企画したもの。会場には100点以上の着物がずらりと並べられた他、着物体験も実施され、柳川高校タイ人留学生のセンディーさんとモニカさんが着物を体験しました。初めて着物を着たというセンディーさんは、「とてもきれい。体験できてうれしい」と笑顔を見せました。



着物体験をする留学生のセンディーさん（中央）

目当ての雑誌を探す来場者



目 当ての本を無料でゲット 市立図書館雑誌リサイクルデー

市立図書館は、2年の保存年限が過ぎた雑誌を1人10冊まで無料で提供する「雑誌リサイクルデー」を年に1回、各館で開催しています。10月31日に開催されたあめんぼセンターには、約200人が来場し、開始前から行列ができる盛況ぶり。会場には、料理や手芸、スポーツ、児童向けなどおよそ35ジャンル、約2900冊もの雑誌や本が所狭しと並べられました。来場者は、「思ったより雑誌があっぴょくりした。来年もまた来たい」と話しました。

ねん土でお皿の形を作る参加者



思 い出に残る作品を親子で制作 豊原小で親子陶芸教室を開催

豊原小学校（武藤勝則校長）で、10月22日に親子陶芸教室がありました。これは、6年生の思い出作りにと、同校PTAが主催。6年生30人と保護者が参加し、水田焼を作りました。まず、講師がねん土の伸ばし方や模様の付け方などを説明。その後、児童と保護者は協力して思い思いのお皿や花瓶、ペン立てなどを作りました。作品を作り終えた中川聖大君は「朝ごはんを食べるときに使うお皿を作った。初めての親子での陶芸でとても楽しかった」と焼き上がりを楽しみにしていました。